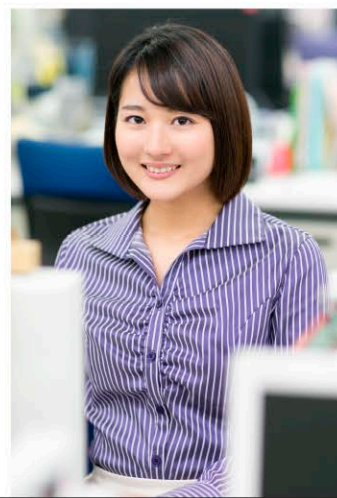


ニュースを伝えるには 背景を理解する 努力が欠かせない

フジテレビ アナウンサー
永尾亜子



ながおこ
長崎県新上五島町出身。上五島高校を経て、2016年長崎大学環境科学部卒業。同年よりフジテレビジョン編成局アナウンス室に勤務。現在フジテレビ系列「みんなのニュース」のサブキャスターとしてレギュラー出演中。

フジテレビ
注目の新人は
長崎県上五島出身

フジテレビ系列で月曜から金曜まで夕方放送されている「みんなのニュース」に出演している永尾亜子さんは、昨年長崎大学環境科学部を卒業後フジテレビに入社した新人アナウンサーです。「『めざましテレビ』のお天気コーナーに出たこともありましたが、十月からこの番組に起用されました。ニュースの原稿を読み上げたり、現場に出てフィールドキャスターをしたりしています。毎日失敗ばかりですね。上五島出身なので、ついなまりが出てしま

います。原稿読みで決められた時間内に収められずに途中で切れたこともありましたが、落ち込むこともありません。仕事が楽しいから続けられます」。

それにしても、東京の放送局のアナウンサー採用といえば難関中の難関、倍率は数千倍ともいわれています。よくぞ突破しましたね。「正直言って、自信はありました（キッパリ）！ なんてだろう……（笑）」。

永尾さんは高校三年のときに、全国高校放送コンテストアナウンサー部門で入賞したそうです。「はい、でもそれは面接のときには隠していました。いかにもという感じだし、伸びしろがない。それよりも出身が上五島であること

を強調しました。そういう経歴のアナウンサーはいないから、面白がられるのではと考えました。でも以前からアナウンサーを目指していたわけではありません。長崎大学ではいろいろな経験を積みたくて、アカペラのサークルに入っ

て地域のイベントで歌ったり、ミスキャンパスコンテストに出場したりもしました。就職を意識したしたのは大学三年になってからです。ニュースが好きで、しゃべる仕事に興味がありました。アナウンサーになるのは簡単ではないけれど、後悔したくないからチャレンジしてみたかったです。それから一日中テレビをつけて、寝ている間もニュースを聞いていま

した。でもどうしたらアナウンサーになれるのかが分かりません。どうやらアナウンススキルがいらないとは分かったものの、長崎では通えません」。

長崎の大学生の大きな悩みの一つが、首都圏での就活準備に時間とお金がかかること。東京の学生と比べて情報不足で不利だという声もあります。「ああ、それは私も切実に感じました。でもあきらめたくなかった。いろいろ調べていたら、夏休みの三日間の集中講座を発見して、よし！ これに応募しよう。思い付きで行動するタイプです（笑）。今思うとそれが正解で、アナウンサーの試験の流れもおおよそつかめました。三日間だからアナウンススキルを会得するには至りませ

見て学ぶためだと気付きました。それからは、原稿にない一言を本番中に入れたり、予期せぬことが起きたときに臨機応変に対応したりする先輩たちを見て、日々勉強しています」。

今後どういうアナウンサーを目指しますか。「私は今、長崎出身であることが自分の個性であると自覚しています。長崎は異文化が交じり合った独特の雰囲気があるし、軍艦島や教会群など宝をいっぱい抱えていて、それらに関連するお仕事も増えています。長崎を出てから長崎のことを勉強しています、これまで全然していません（笑）。これは私にしかできない、そんな仕事をしっかりやっていきたいですね。先輩たちに言いたいのは、地方は就活では不利な部分もあるし、コンプレックスを感じる人もいるかもしれないけれど、逆にそれを利用してチャレンジできるといいことです」。

爽やかな笑顔そのままに、真つすぐなまなざしと口調から強い意志を感じさせる永尾亜子さん。これからどこまで伸びていくのか、テレビ画面のこちら側から見守っていきたいですね。



人は勉強しているんだから、生半可な知識で発言したら駄目だよ」と叱られました。社会に出ると世界は広い。大学で学んだことは違う意見や考え方もあることを思い知らされました」。

厳しい世界ですね。「それからは、大学での学びをベースにニュースの流れや背景をつかむ勉強を意識しています。ニュースは、背景知識があるのとないのでは言葉の説得力が違い、

理解せず字面だけ追っけていても伝わりません。最初は自分が読む原稿の漢字やアクセントを確認するので精いっぱいでしたが、それでは不十分。スタジオに出させてもらっているのは先輩たちの動きを



「みんなのニュース」
毎週月～金曜日 16:50～19:00オンエア